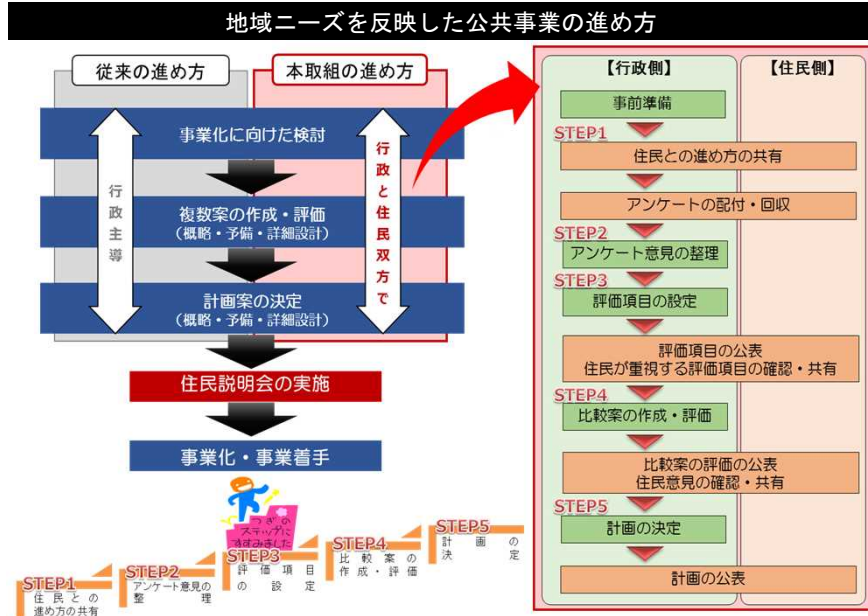


コラム①. 社会資本整備の取り組み方を変える

① 「地域ニーズを反映した公共事業」の推進

「より良い計画」を策定するためには、計画の決定プロセスの透明性の向上を図り、多様な地域ニーズを的確に反映する必要があります。そのため、計画案を県が決定する前にアンケートなどにより、地域ニーズを把握し、計画に反映させる「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組みます。



令和2年度は砂防事業の4事業で「地域ニーズを反映した公共事業」に取り組みました。令和3年度については、交通安全対策事業の1事業と砂防事業の2事業で取り組む予定です。

烏川支川 花見町1地区 高崎市 土石流対策事業

取組の事例

令和2年度に烏川支川 花見町1地区（高崎市）で実施した「地域ニーズを反映した公共事業」の事例です。

本箇所は保全対象の1つに幼稚園があることから、土石流対策計画を決定するにあたり、周辺住民だけでなく幼稚園の利用者にもアンケートを配布し、意見をいただくことで、地域として求めるニーズを把握し、計画に反映するとともに、新型コロナウイルス感染防止にも留意しつつ、各検討ステップごとに住民との合意形成を図りながら、土石流対策計画を策定しました。



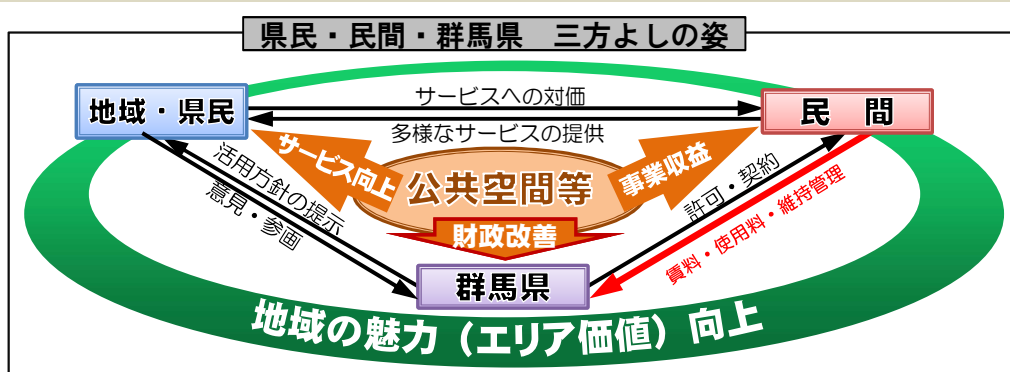
②公共施設・空間への民間活力導入の推進

多様化する県民ニーズに対応するため、民間の力を積極的に活用することで、県民サービスのより一層の向上に努めます。

(1)民間活力の導入による公共施設・空間の有効活用

県有公共施設・公共空間において、民間による投資・活用を促すことで、使用料等の収入の増加や維持管理費の削減、新たな経済活動の創出により、地域の活性化につなげます。

公共施設・空間への民間活力導入のイメージ



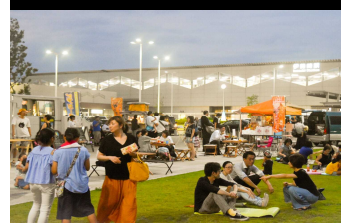
桐生市市内の県道の活用事例



前橋駅前通りの活用事例



伊勢崎駅前の活用事例



(2)都市公園における Park-PFI（パーク ピーエフアイ）の導入

都市公園における新たなニーズに対応するため、従来の官民連携制度では困難であった民間資金を活用することでサービス水準を向上させる「Park-PFI（公募設置管理制度）」の導入を推進します。

取組の事例

Park-PFI（パーク ピーエフアイ）の導入

群馬県では、「Park-PFI（公募設置管理制度）」の導入として、平成30年度に敷島公園において、スターバックスコーヒージャパン(株)を、令和2年度には、観音山ファミリーパークにおいて、(株)ヒロミヤ住建を事業者として選定し、カフェを伴う憩いのスペースを設置しました。

今後も他の公園における導入に向けた手続きを進めています。

敷島公園(スターバックスコーヒー)



観音山ファミリーパーク



③わかりやすい情報発信による県土整備行政の見える化

県民との信頼関係の構築や社会資本整備に対する理解促進を図るため、計画の策定から事業の実施、完成後の評価・検証に至るまでの、社会資本整備の全てのプロセスにおいて「見える化」を積極的に推進します。

(1)ストック効果の見える化

「ストック効果事例」の作成により、社会資本の必要性や重要性をわかりやすく県民に「見える化」します。

○ストック効果とは

社会資本が整備・蓄積されることにより機能することで、継続的かつ中長期にわたり、地域経済の発展や県民生活の向上をもたらす効果のこと。

耐震性の向上や水害リスクの低減による「安全性の向上効果」や、生活環境の改善やアメニティの向上による「生活の質の向上効果」のほか、移動時間短縮等による「生産性向上効果」があります。

(2)事業の目的・進捗状況の見える化

「よくわかる公共事業」の作成により、主要事業の目的や完成予定年度、進捗状況等をわかりやすく県民に「見える化」します。

令和3年度からは、より多くの県民に周知し、さらなる社会資本整備に関する理解促進を図るため、スマートフォン等で閲覧可能な「よくわかる公共事業」のHPにリンクする「QRコード」を積極的に活用します。



(3)わかりやすい広報の展開

現場見学会やインフラツーリズムの実施、建設産業の魅力を伝える動画の配信など、建設産業や土木施設の魅力を広く県民に伝えることで、社会資本整備に対する理解促進と建設技術者を志す人材の拡大につなげます。

令和3年度は建設業に入職する高校生や若い世代に興味を持ってもらえるよう、ドキュメンタリー風にスタイリッシュな映像で土木の内側を紹介する番組「ドボクリップ」を放送します。

